

【正誤表】

『2018年 第36回学術大会 プログラムおよび講演抄録集』にて、掲載内容に誤りがございました。関係各位にご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 学術委員会

<訂正箇所>

82頁 (上 段) T-5	CBCT & マイクロスコープ ——日常臨床における活用術	梅村 匠
117頁 (左上段) o-45	年齢に応じた限界運動と機能運動を考慮した咬合再構成	宮田 匡人
124頁 (右下段) o-76	コーヌスクローネの適応症を再考する	小西 浩介

訂正箇所	誤	正
82頁 (上段) T-5 抄録	そこで今回これらの機器を活用することで何ができるか、またより良い治療結果を導くことにより質の高い医療を提供し、医院への高い評価と価値を生み出す <u>た</u> に、日常臨床でどのように活用するかについて臨床例を通じて解説する。	そこで今回これらの機器を活用することで何ができるか、またより良い治療結果を導くことにより質の高い医療を提供し、医院への高い評価と価値を生み出す <u>ため</u> に、日常臨床でどのように活用するかについて臨床例を通じて解説する。

訂正箇所	訂正
117頁 (左上段) o-45 演者写真	<p style="text-align: right;">9日 15:10 ~ 15:30 G 604</p> <p style="text-align: center;">O-45 ⑦咬合・咀嚼 ⑨クラウン・ブリッジ</p> <p style="text-align: center;">年齢に応じた限界運動と機能運動を考慮した咬合再構成</p> <p style="text-align: center;">Occlusal reconstruction considering border movement and functional movement in accordance with age</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>宮田 匡人 Masato Miyata 医療法人 宮田歯科医院</p> </div> </div>

訂正箇所	誤	正
124頁 (右下段) o-76 英語演題 抄録 共演者	A case of occlusal reconstruction on non-vertical stop occlusion using removable denture	Reconsidering indications of Konus Krone
	コーヌスクローネを考案し、その理論体系を確立させた K. H. Küber は、支台歯の本数やその位置関係により、適応症および禁忌症が存在すると述べている。	コーヌスクローネを考案し、その理論体系を確立させた K. H. Körber は、支台歯の本数やその位置関係により、適応症および禁忌症が存在すると述べている。
	訂正 (共演者欄)	
稲葉 繁 稲葉歯科医院		